第５学年　総合的な学習の時間　学習指導案

草津市立常盤小学校
教諭　　岡田　惇

１．単元名　　常盤の米の未来を救い隊！

２．単元の目標

〇身近な田んぼや琵琶湖に関する知識を豊かにすることができる。　　（知識及び技能）

〇地域の課題に着目して、課題解決のための活動を具体的に想像することができる。
（思考力・判断力・表現力）

〇常盤の米や、琵琶湖に関心をもち、常盤のよりよい未来を創造しようとする。
（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

本単元では、急速な社会の変化の中，子どもたちが持続可能な社会の担い手となるよう地域で培う「生きる力」を土台として、自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることを目指している。この自らの可能性を発揮するためには多くの体験活動を通して、「相手の心にふれること」「自分のよさや可能性を認識できること」が必要であり、子どもたちに地域への関心を高めたり、挑戦する自己を肯定する思いを育んだりすることが重要である。

しかし，日本の子どもの「自己肯定感」については、文部科学省の調査「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査における国際比較」「諸外国と比べた我が国の子どもたちの自己肯定感」の結果から、諸外国の若者に比べて低いことが指摘されている。自分に対して自信がないままでは，自分の成長を実感し，次への意欲をもつことも難しいと考えられる。

そのため、本単元では琵琶湖が近いこと、田園風景が広がっていることなど、自分事に捉えやすい地域の教材に改めて目を向け、愛着を深めるとともに、多様な変化に富む社会を力強く生き抜いていく、一人ひとり異なる「生きる力」を育み、自分や地域への自信をもてるようにすることを狙いとする。

（２）児童観

本学年の児童は、第４学年において、地域の方と多くの関わりをもつ「常盤健康体操」の活動に取り組んでいる。この活動を通して、地域への愛着や人とつながる楽しさを学んできている。今年度の取り組みでは、昨年度に増して地域へのつながりを広げたり、昨年度から交流があった地域の方との関係を更に深めたりして、地域の一員である自覚を高め、その意識を活動にいかしていきたい。

また、今年度行った委員会の改廃では、今の学校に必要なことを考えて意見を出し、６年生と共に活動を展開している。委員会の時間には、多くの意見を出しながら、よりよい学校にするために、新しい取り組みに挑戦している姿が見られる。社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つけたり、友だちとの対話を通して考えを練り上げ、具体的に実践したりすることができ

るようになったこの時期に、本課題を取り上げる意義は大きいと捉える。

（３）指導観

本単元の指導に当たっては、まず常盤の町の特徴を出し合い、魅力を考える。
そして、田園風景が広がっていることに着目し、稲作が地域の大切な産業であることに気付かせる。その後、農家の方に話を聞くことで実際に稲作の活動を見てみたい、挑戦したいという気持ちを高め、実際に苗植えをさせていただくことで、実感を伴う学習を進める。そして、その活動で出た感想から、自分たちが地域のためにできることを考えて行動する計画を練る。米の魅力を広める学校内外への広報活動。常盤に住む大人の米に対する意見を聞くインタビュー。フローティング学習（５年生で行う琵琶湖での宿泊活動）を通して学ぶ水資源の雄大さ、大切さ。それらを学んだうえで気付いた味わい。学んだ様々なことを発表する場を設け、感想をもらうことで得る、地域づくりに直接貢献できたという充実感をふり返り、さらに自分たちにできることはないだろうかと話し合うことを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

（４）ESD との関連

・<u>本単元で働かせる ESD の視点（見方・考え方）</u>

有限性…地域で働いている農家を見ると、多くが高齢者である。これを見過ごせば常盤の米文化が廃れていってしまうということ。

連携性…これからの町は、地域の民生委員や身内だけで高齢者を支えるのではなく、地域全体で支えていくことが大切であるということ。

・<u>本学習を通して育てたい ESD の資質・能力</u>

クリティカル・シンキング

地域の魅力と課題の事実を基に、魅力の発信・課題解決へ向けた活動を考え実行し、周囲のリアクションから新たな方法を模索していく。

コミュニケーション力

共に活動する仲間だけなく、地域の方とも積極的にコミュニケーションをとることで意見や、新たな発信方法の反応を聞く。

協働的問題解決力

共に活動する仲間だけなく、地域の方とも何度も出会い、一緒に活動を進めていくことで最後のまとめを自分事として捉えやすくする。

・<u>本学習で変容を促す ESD の価値観</u>

世代内の公正

自分たちだけではなく、高齢者や幼い子どもなど、同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくり、魅力の継承が大切である。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せであることが、次世代にも幸せであるとは限らないという考えをもち、先を見据えた活動を展開する。

・達成が期待される SDGs

３　すべての人に健康・福祉を

１１　住み続けられるまちづくりを

４．単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 稲作に携わる上での留意点、日常から取り組めること等、稲作に関する知識について理解している。 ② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらを関係づけながらまとめる技能を身に付けている。	① 資料をもとに課題を見いだし、活気あるまちづくりのための方策を考えている。 ② 稲作の課題（後継者不足や消費量低下）について学んだことや考えたことを、お米フェスで表現している。	① 田んぼが周囲に多くある地域なので、意欲的に稲作についての学習に関わろうとしている。 ② 稲作体験を通して、稲作の大変さや魅力を知り、地域で盛んな稲作に関して、自分にできることを模索しようとしている。 ③ 稲作について学んだことを地域の人に納得してもらえるように発信しようとしている。

５．単元の指導計画（全３５時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
1　苗植え体験や農家へのインタビューを通して、米作りの魅力と課題とつかむ。 ・地産地消 ・消費量低下、後継者不足	○苗植え体験や農家へのインタビューを通して、魅力や課題を考えさせるとともに、自分が育っている地域にできることは何かを考えさせるようにする。	ウ① （主体的） イ① （思判表）
2　農家の仕事を知る。 ・米を食べるために欠かせない仕事だ。	○農家にインタビューをして、仕事内容を知る。	ウ① （主体的）
3　米の魅力を広めよう。 ・給食の残飯が減るようにポスターをつくろう。	○相手意識をもって活動を進め、反応がもらえるようなシートもつくって考えることで、米と人とをつなげられるようにする。	ウ③ （主体的）

・お米新聞を地域の掲示板や保育園等に貼らせてもらおう。 ・米のお供として、常盤の米に合うふりかけを開発する。	○ポスターや掲示板にある「読んだ後の反応」を見て、更に米への関心を高められるようにする。 ○常盤小学校の卒業生で、ふりかけ作りを研究されている方にアドバイスや試食会に来ていただいたり、教職員の方に食べた感想を聞いたりする。	ア①② （知技） ウ③ （主体的）
4　活動のふり返りをする。 ・効果や反応が聞けて嬉しかった。 ・他にできることはないだろうか。 ・もっとわかりやすいポスターにしたい。 ・アドバイスをいかして、もっと「おいしい」って言ってもらえるふりかけを作りたい。	○それぞれの活動でいただいた感想やアドバイスをまとめる。そこから更に自分が高めたい活動をしぼり、長期的な視点で未来につなげる活動を考えるように声掛けをする。	イ② （思判表）
5　地域の米と他地域の米を食べ比べ、地域の米の魅力に気付く。 ・甘味が強い。	○どうして地域の米の味の方がおいしく感じられるのか考え、自分たちの考えを伝える方法を模索できるようにする。	ウ② （主体的）
6　米の魅力を更に引き出すために、お供として魅力的なふりかけを開発しよう。	○今後の活動へと連続発展させていかせるために、自分にできることはもっとないか考えさせるようにする。	イ② （思判表）
7　経験したことをもとに、これまで関わった人を招待する「お米フェス」を開催する。 ・米の魅力が伝わったらいいな。 ・来ていただいた方も私たちも楽しめる会にしたいな。 ・感想を聞いて、次の活動を考えたいな。	○これまでの感謝と、学習してきたまとめを相手に伝わるように発表できるよう声掛けをする。 ○取り組んできたことが、まわりの人へ良い影響を与えていることを感じさせ、大きな達成感を感じられるようにしたい。	ウ③ （主体的）